新撰

尋常日本讀本

第七

T1A3
1E93
M031

臺北帝國大學圖書之印

臺北帝國大學圖書館藏

名稱
部類 日漢
番號 第九號

30446
教科書文庫
3
810
31-1893
25600
25609
M26
1893

明治廿六年九月十八日
文部省檢定濟

廣島高等師範學校圖書之印

新撰尋常日本讀本 七

文部省

廣島高等師範學校圖書之印

廣島縣立師範學校

廣島縣立師範學校圖書館蔵書 25699號
函 390新
架 第32.89 巻
冊内

廣島

廣島縣立師範學校

日高

日高

商人ノ勇氣。

諸君ハ屢勇氣アル軍人ノ話シヲ聞キシナラン。軍人ガ國ノ爲ニ戰フニ當タリテハ白刃ヲモ踏ムベシ、水火ニモ入ルベシ、進ミテ死スルコトヲ知リテ退キテ生クルコトヲ知ラズ、是レ軍人ノ勇氣ナリ。軍人ニシテ勇氣ナケレバ、敵ヲ防ギ國ヲ護ルニ足ラズ。

勇氣ノ貴ブベキハ獨軍人ニ於イテ然ルノミナラズ、商人ニ於イテモ亦然リ。商業ハ敏捷活

激ヲ貴ブモノニシテ、商機ノ失フベカラザルハ兵機ノ失フベカラザルニ譬フベシ。商業ハ縝密周到ヲ要スルモノニシテ、商算ノ慎ムベキハ戰略ノ慎ムベキニ比スベシ。故ニ西洋ノ諺ニモ「商業ハ太平ノ戰爭ナリ」ト云ヘリ。商人ニシテ勇氣ナクバ商機ヲ見テ之ニ乘ズルコト能ハズ、商算ヲ畫シテ之ヲ行フコト能ハザルベシ。商人ニシテ商機ニ乘ズルコト能ハズ、商算ヲ行フコト能ハズバ太平ノ戰爭ニ敗北スベシ。余ハ今諸君ニ詰スニ勇氣アル商人ノ事ヲ以テセン。

紀之國屋文左衛門

紀ノ國屋文左衛門。

紀ノ國屋文左衛門ハ紀州ノ人ニシテ河村隨軒ヨリハ稍後輩ナリ。紀州ハ本嶋最南ノ海國ナレバ氣候溫暖ニシテ蜜柑ニ有名ナリ。

相傳フ、文左衛門十七、八ノ時紀州熊野ノ浦ニ鰐鮫多ク來リテ海中ノ魚類之ガ爲ニ食ヒ盡クサレ、漁家業ヲ廢スルコト一月餘ニナリヌ。文左衛門漁人ニ教ヘテ、多ク人形ヲ作リ、其ノ中ニ

毒物ヲ充タシ、之ヲ船ニ載セ、沖ニ出デテ船歌ヲ歌ハシメタリ。　鰐鮫其ノ聲ヲ聞キ、船ヲ追ヒ來リテ人ヲ呑マントスル時文左衛門命ジテ彼ノ人形ヲ投ゲ入レシメキ。　斯クシテ難ナク鰐鮫ヲ殺シ盡クシ、村村ノ害ヲ除キケレバ、若年ナガラ村民ニ尊敬セラレタリ。

一年東海難風多ク、諸港ノ船皆畏レテ敢テ發セザリケレバ、江戸ニハ紀州蜜柑拂底シテ相場頓ニ上リ、江戸ノ商人等足ヲツマ立テテ之ヲ望ミタリ。　然レドモ風ハ益强ク、海ハ益荒レ、船頭ハ皆船底ニ伏シテ敢テ起キザリケレバ、全國ノ蜜柑一人ノ買ヒ手モ無ク、空シク朽チ去ラントセリ。

文左衛門ハ此ノ機ニ乘ジテ一タビ僥倖ヲ試ミント欲シ、一艘ノ廢船ヲ人ヨリ借リテ之ヲ假覆シ、蜜柑數千箱ヲ低價ニ買ヒ取リテ積ミ入レ、サテ無宿無賴ノ溢レ者ヲ雇ヒテ之ガ水手トシ、前金ヲ豐カニ取ラセテ、酒食ノ馳走ヲ極メタリ。是レ等ノ徒ハ皆世ニ餘サレ、朋友親戚ニ見放サレタル命知ラズノ者ナリケレバ、文左衛門ガ待

過ヲ感シ、萬死ノ中ニ千金ノ富ミヲ求メント約セリ。

凡不祥ヲ忌ムハ船頭、水手ヨリ甚シキハ無シ。然ルニ此ノ水手等ハ兼テ必死ヲ覺期シケレバ、皆經帷子ト云フ死人ノ服ヲ着シ、額ニ三角ノ紙ヲ當テ、一行十餘人紀州沖ニ打チ出デタリ。尋常ノ順風ニダニ帆船ノ走ルハ速ナルモノナルニ、增シテヤ暴風ニ鞭打タルル船ナレバ、正ニ海燕ガ波間ヲ飛ビ行クガ如ク、海鷹ガ下リテ魚ヲ掴ムガ如ク、行程三百里ヲ一晝夜ニ馳セ、沖ノ暗イニ白帆ヲ見セテ武州江戸ノ海ニ到着セリ。

斯クテ文左衛門此ノ蜜柑ヲ賣リケルニ、人皆吾レモ吾レモト糶リ買ヒケレバ、一朝ニシテ數千兩ノ金ヲ得タリ。其ノ頃ノ千兩ハ今ノ一萬圓ニモ當タルベシ。誠ニ暴風モ畏ロシカラズ、畏ロレキ者ハ文左衛門ガ勇氣ナリケリ。

文左衛門後ニ江戸ニ住居シ、富有豪氣一世ニ名高ク、人皆紀文大盡ト稱シ、今ニ至ルマデ世ノ語リ草トナセリ。

紀國屋亦右衛門

紀ノ國屋亦右衛門。

大坂ニ紀ノ國屋亦右衛門ト云フ豪商アリキ。其ノ若カリシ頃本店ナル紀ノ國屋某ニ仕フルコト十餘年ナリキ。主人ハ亦右衛門ヲ見所アル若者ト思ヒケレバ、年期明クル時慰勞金百兩ヲ與ヘテ、「此ノ金ヲ千兩トセザル間ハ再吾ガ家ヲ訪フコト勿レ。」ト云ヒテ之ヲ勵マシキ。

亦右衛門思ヒケルハ、凡諸民一般ノ日用品ハ價低クシテ利潤薄シト雖、朝ニ行ハレ夕ベニ棄タルノ患ヘナシ、加之、商賣ヲ手廣クスルハ亦日用品ニ如クハ無シト。是コニ於テ紙屑買ヒト紙屋ヲ兼ネ紙屑ヲ買ヒ入レテハ之ヲ抄キ返サセ、僅ナル利潤ヲ以テ之ヲ賣リ、三年ニシテ三百兩ヲ得、又五年ニシテ千兩ヲ得前後七年ノ勤儉ヲ以テ漸ク前約ヲ果タシ、久々ニテ主人ニ面會シタリ。

主人ハ大ニ其ノ實直ナル考案ヲ賞美シ、今度ハ此ノ千兩ヲ一萬兩ニスベシト命ジタリ。亦右衛門畏マリテ、是レヨリ五年ヲ經ズシテ一萬兩トナシテ主人ニ示セリ。主人益賞歎シテ又

之ヲ十萬兩ニセヨト命ジケレバ、亦右衛門畏マリ、「百兩ヲ千兩ニシ、千兩ヲ萬兩ニスルニコソ骨ハ折ルレ。一萬兩ヲ十萬兩ニセンコト何ノ子細カ候フベキ。」トテ此ノ度ハ三年ヲ經ザル間ニ十萬兩ニシテ主人ニ示シタリ。

主人ハ之ヲ見テ曰ハク、「此ノ上ハ余ガ助言ヲ要セズ。但シ此ノ金ヲ百萬兩ニスルコトヲ心掛クベシ。」亦右衛門之ヲ聞キ「十萬兩ヲ百萬兩ニスルコトハ更ニ容易ナリ。然レドモ命ニハ限リアリ、欲ハ限リナシ。百萬ト云ヒ、千萬ト云

何事ヲ學ビシカ

ヒ終ニ飽ク時無カルベシ。」トテ、十萬兩ヲ主人ニ奉リ、餘ノ財貨ヲバ徧ク知己ニ分配シ、髮ヲ削リテ名ヲ圓智坊ト改メ、日日托鉢シテ世ヲ終ヘシトゾ。

亦右衛門ガ出家ハ人ノ手本トシ難ケレドモ、其ノ商賣ニ於テハ汝等ガ學ブベキ所多シ。

何事ヲ學ビシカ。

汝等ハ紀文ト亦右衛門ノ話シニ付キテ何事ヲ學ビシカ。如何ナル人モ用ヒ方ニヨリテ功

ヲ成サザル者無キコトヲ學ビシナラン。不祥ヲ忌ムノ無益ナルヲ學ビシナラン。勇氣アレバ難事モ必成ルヲ學ビシナラン。大利ヲ望ム者ハ危キヲ犯スコトヲ學ビシナラン。日用品ハ利薄ケレドモ、商賣安全ナルコトヲ學ビシナラン。手廣キ商法ハ多クハ日用品ニ在ルコトヲ學ビシナラン。元手金愈多ケレバ之ヲ十倍スルコト愈易キヲ學ビシナラン。

紀文ガ航海ノ如キハ、一タビ過ツ時ハ蜜柑船ハ言フニ及バズ、一行十餘人ノ命ヲモ損失スベシ。斯カル危險ナル商法ナレドモ、事成ル時ハ一朝ニシテ數萬ノ利ヲ得ルノ望ミアリ。若シ斯クノ如キ大利アラズバ誰レカ甘ンジテ此ノ危險ヲ犯サンヤ。而シテ亦右衛門ガ商法ハ全ク之ト反セリ。故ニ大利アル商法ニハ大損アリ、利潤少キ商法ハ常ニ安全ナリ。譬ヘバ魚屋ハ生魚ヲ持チ腐ラシテ大損スルノ患ヘアリ、故ニ其ノ新鮮ナル時ニ高利ヲ得ザルベカラズ、是レ亦危險ノ一ナレバナリ。之ニ反シテ腐敗ノ患ヘ無キ鹽魚ノ如キハ必シモ最初ニ高ク賣ル

コトヲ要セズ。

汝等ハ元手愈多ケレバ倍スルコト愈易キ故ヲ知レリヤ。紙屑ナリ、抄キ返シナリ、或ハ魚類ナリ、總ベテ多ク物ヲ仕込ム時ハ其ノ價常ニ賤シ。故ニ多クノ金錢ヲ持テバ、低價ナル仕入レヲ爲スヲ得ベシ。其ノ他金錢多キノ利益ハ余今一一之ヲ述ベズ。汝等他日ミヅカラ商賣ヲナシ元手ヲ殖ヤスニ隨ヒテ其ノ面白サヲ知ルベシ。

船

船。

船ニハ種種アリ、日本形ト云ヒ、帆前船ト云ヒ、汽船ト云フ。日本形ハ吾ガ國ノ古風ノ作リニシテ、其ノ形小サク、其ノ構造粗末ニシテ、大海ヲ渡ルニ甚危險ナレバ、今ハ之ヲ新造スルヲ禁ゼラレタリ。

帆前船、汽船ハ皆西洋形ナリ。帆前船トハ蒸氣ノ力ヲ用ヒズ、唯風ヲ以テ走ラスル船ナリ。若シ順風ナル時ハ其ノ早キコト汽船ニ優ルト雖、然ラザレバ時日ヲ費ヤスコト頗多シ。然レ

ドモ帆前船ハ入費甚寡キヲ以テ運賃一般ニ賤シケレバ、時トシテハ汽船ヨリ便益ナルコトモアリ。

汽船ニモ軍艦、飛脚船等ノ別アリ。軍艦ハ名ノ如ク戰爭ノ時ニ用フル船ナリ。飛脚船ハ平日旅客荷物等ヲ運搬スル船ナリ。船ノ長サハ通例四、五十間ニシテ中ニ客室アリ、上等客室及ビ食堂ニハ、飲食ノ具、化粧ノ具、遊嬉ノ具ニ至ルマデ備ハラザル所ナク、甲板ノ上ニハ運動場アリテ旅客ノ逍遥ニ供セリ。甲板ニ上リテ遠近ノ山ヲ望ミ、或ハ大魚ノ波間ニ跳ルヲ見ルハ最愉快ナル景色ナリ。然レドモ暴風一タビ起コル時ハサシモノ大船恰モ木ノ葉ノ如ク、或ハ直立セントシ或ハ横ニ臥サントシ、檣ハ折レ、帆ハ破レ、不幸ニシテ海中ニ暗礁アル時ハ船體之ニ觸レテ眞二ツニ折ルル

コトサヘアリ。

斯カル時ニモ船長水手等ハ毫モ畏ルル色ナク用意ノ小舟ヲ下シテ先ヅ旅客ヲ載セ、水手等ハ必死ノ勇ヲ奮ヒテ大山ノ如キ浪ヲ推シ切リ、安全ニ陸地ニ到着セシムルナリ。斯クノ如キ變ニ備ヘントテ政府ハ處處ノ海岸ニ燈臺ヲ設ケテ暗夜ニ航海スル船ノ目當テトナサシム。

雨ハ泣キ、　風吠ユル
浪ハ怒リテ、　五月闇
犬吠ガ崎ノ

偽リ沙アスル

アヤメモ別カヌ　大海ヲ
迷フ舟子ニ　目クハセテ、
雲ニ知ラレヌ　月星ト
輝ク磯ノ　トモシビハ
吾ガ大君ノ　明ラケク
世ヲ治メマス　光リナルハヤ。

偽リハ終ニ顯ハル。

或夜舟乘リノ姿コナシタル者四人打ナ擲ヒテ余ガ家ヲ叩キ「吾レ等ハ今夜此ノ沖合ヒニテ

難船シ、見ラルル通リ難儀ニ及ベバ救ヒ給ハレ」ト云フ。　余ツラツラ其ノ様子ヲ視ルニ一人ハマガフ方ナキ舟乗リナレドモ、他ノ三人ハ疑ヒモナク賈物ナラント心付キタレバ余ハ左アラヌ體ニテ尋ヌルヤウ、「ソハ氣ノ毒ノ至リナリ其ノ難破シタル船ノ名ハ何ト申スヤ」ト。

四人ノ者聲ヲ揃ヘテ、「住吉丸ナリ」ト答フ。　是コニ於イテ余ハ眞ノ舟乗リト思ヒシ人ノミヲ應接ノ間ニ留メ置キ三人ノ者ヲ各別室ニ導キタリ。　三人ノ者ハ此ノ取リ扱ヒニ逢ヒテ其ノ

故ヲ解セザリシナラン。　斯クテ余ハ先一室ニ入リ静ニ云フヤウ「住吉丸ノ難船ハ誠ニ氣ノ毒ナリ。　船頭ノ名ハ何ト申シシゾ」。「浪右衛門ト申ス者ナリ」ト答フ。　余ハ去リテ次ノ室ニ入リ其ノ不幸ヲ慰メ、又其ノ船頭ノ名ヲ尋ネタリ。彼レ答フルヤウ「濱次郎ト申ス者吾レ等ノ船頭ニ候ヒキ」。　余又去リテ次ノ室ニ入リ同ジキ事ヲ聞キシニ、「船頭ノ名ハ岸松ナリ」ト答ヘタリ。

余ハ三人ヲ元ノ應接ノ間ニ呼ビ來リ云ヒクルヤウ「サテモ、サテモ御身達ハ不思議ナル人人

國見良助大和巡

カナ。三人ノ船頭ヲ乘セテ航海スルトハ。諺ニモ『船頭多クシテ船、山ニ上ル』ト云フコトアリ。御身達ノ住吉丸ヲ岩ノ上ニ乘リ上ゲシモ不思議ニハアラズ」。

四人ノ者ハ其ノ工ミタル偽リヲ見拔カレシコトノ恥カシカリケシ、何事ヲモ云ハズ、スゴスゴト立チ去リケリ。

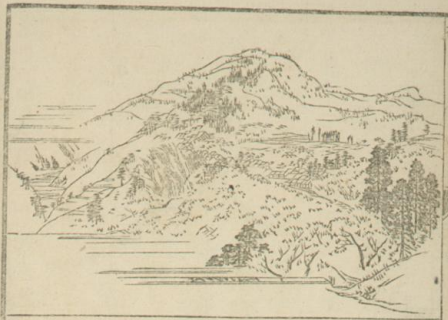
國見良助ノ大和巡リ。

余ハ國見良助トテ大坂ノ商家ノ子ナリ。大坂ハ商業ノ地ニシテ淀川ノ流レ市中ヲ縱横ニ貫キ運漕甚便ニシテ、港ニハ出入ノ船夥シ。余ガ家ハ諸國ノ商人ト手廣ク商賣ヲナシ、余ハ小學校ヲ卒業シテ後ハ家ニ在リテ專商賣ノ見習ヒヲナセリ。

余ガ十八歲ノ時父云ヘルヤウ「商人トナラント欲セバ先各地ノ物産運漕ノ便不便ヲ知ルベシ。然ラザレバ手廣ク各地ト取リ引キヲナスコト能ハズ。汝ガ自商賣ヲナスベキ時近キニ在リ。今ヨリ汝ニ旅行ヲ許スベケレバ善ク各

地ノ物産地理ヲ視テ他日ノ助ケトナスベシ」ト。是コニ於イテ余ハ平生ノ望ミヲ達スル時ヲ得テ喜ブコト限リナク、地圖ヲ開キテ旅行ノ道順ヲ考ヘ、ヒタスラ支度ヲ急ギケリ。

折リ善ク余ガ家ノ持チ船國見丸ハ北海道ニ航海スル筈ナレバ余ハ其ノ上乘リヲナスベキコトニ決シタリ。サレドモ積ミ荷未調ハザレバ余ハ其ノ間ニ大和巡リヲナサント欲シ、四月ノ初メ、南ノ方和泉ニ入リ、堺ニ著キヌ。此ノ地ハ三百年前ノ外國交易場ニシテ今尚商家多ク、



有名ナル河内木綿ハ皆ココニ集マルナリ。余ハ北海道ニ送ルベキ木綿及ビ鐵物ノ賣買約定ヲナシテ後、大和ニ入リ先音ニ聞コエシ吉野ノ櫻ヲ視シガ、一目千本ノ景色ハ誠ニ

「是レハ是レハ、トバカリ花ノ吉野山。」

ト古人ノ云ヒシ如ク賞ムル詞モ出デザリキ。

余ハ其レヨリ塔峰、長谷、三輪、畝火山等ノ名所ヲ巡リテ奈良ニ至リ、千年以前ノ帝都ノ跡ヲ訪ヒ、北ノ方山城ノ木津宇治ニ至リテ製茶ノ有リ様ヲ見物シタリ。斯クテ余ハ伏見ニ出デ淀川ノ汽船ニ乘リテ家ニ歸レバ、國見丸出帆ノ用意モ已ニ調ヒテ余ヲ待チ居タリ。

春ノ山。

ふりニケル

雪ノ綿キヌ　　とき捨テテ、
裾野ノ冬草　　裁チ替ヘテ
霞ノ衣　　花ノ帶、
此ノモ彼ノモヲ　　朝雨ノ
水ニ洗ヒテ　　春ノ山
笑フ聲サヘ　　時ツ風
枝ヲ鳴ラサヌ　　今日ノノドケサ。

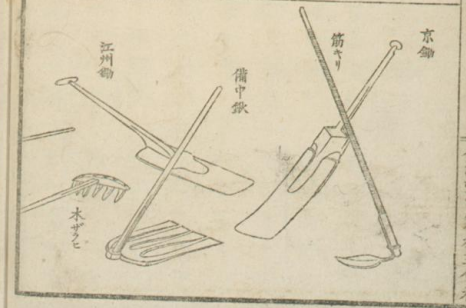
農具。

凡如何ナル仕事ヲナスニモ道具利ナラザレバ勞多クシテ得少シ。農業ノ開ケザル所ニテハ農具甚粗ニシテ何事ニモ一種ノ道具ヲ以テ用ヲ濟マスコト多シ、其ノ不便想フベキナリ。

東京ヨリ北ノ國國ニテハ大抵土ヲ耕スニモ鍬ヲ用ヒ、種ヲ蒔クニモ鍬ヲ用ヒ、中打チヲナスニモ鍬ヲ用フ。然ルニ畿内、中國ニ至リテハ牛馬ノ耕シ盛ニ行ハレ、田畑ヲ鋤クニ唐鋤即犁ヲ用ヒ土塊ヲ碎クニハ金ざらひ、木ざらひ、熊手等ヲ用ヒ、畦ヲ作ルニ筋切リヲ用ヒ、草ヲ削ルニ草削リ、万能ヲ用フ。

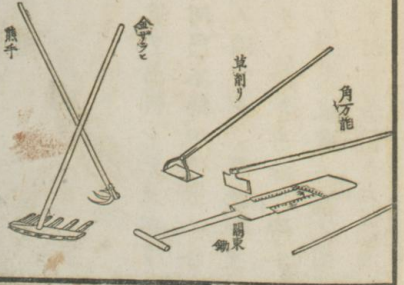
鍬ニモ種種アリテ各其ノ用ヲ異ニス。備中鍬ハ堅キ土地ヲ掘リ起コスニヨシ。黒鍬ハ重厚ナル大鍬ニシテ藪ヲ掘リ竹木ノ根ヲ掘ルニ用フ。其ノ他鍬ノ種類數フルニ遑アラズ。

鋤ニモ又京鋤、江州鋤、關東鋤アリ。京鋤ハ刃



先厚ク長クシテ荒砂交リノ濕氣多キ田ニ宜シク、江州鋤ハ刃先反リテ畦底ノ土ヲスクフニ可ナリ、關東鋤ハ粘土ノ田ヲ掘リ起コスニ便ナリ。

是レ等ハ唯普通ノ農具ヲ聊改良セル者ニ過ギズ。近頃西洋ヨリ渡リタル農具ニハ全ク體



瀬戸内海

載ノ變ハリタル珍シキ者アリ。余ハ他日其ノ一二ヲ語ルコトアルベシ。

瀬戸内海。

國見丸ハ五月ノ初メ大坂ヲ出帆シテ北廻リノ航海ヲナス。積ミ荷ハ河内木綿、堺鐵器ノ外ニ攝津ノ名産ナル灘、伊丹ノ酒ナリ。攝津、和泉ノ前面ハ弓形ノ入リ海ナリ。斯カル海ヲ灣ト云ヒ、此ノ灣ヲ大坂灣ト云フ。大坂灣ノ西ノ端ハ神戸港ニシテ茶ノ輸出ヲ以テ名高キ外國交易場ナリ。神戸ト兵庫ノ間ナル湊川ハ昔楠正成ガ國賊ト戰ヒテ戰死セシ古跡ナリ。大坂灣ヨリ後ノ方ヲ顧ミレバ楠氏ノ居城アリシ河内ノ金剛山雲外ニ聳エテ一門ノ忠義ノ高キヲ表セリ。

神戸ヲ船出シテ西ニ進メバ須磨ノ浦アリ、後ロノ山ハ九郎判官源義經ノ古戰場ナル鵯越ナリ。是レヨリ西兩岸相迫リテ潮流甚急ナリ。斯カル狹キ海ヲ瀬戸、又ハ海峽ト云ヒ、此ノ瀬戸ヲ岩屋ノ瀬戸ト云フ。右ニハ明石ノ浦ノ白砂

青松吾レヲ招クガ如ク左ニハ淡路嶋ノ漁家呼ベバ應ヘントス。播磨ノ海濱ニ鹽濱多ク、赤穗ノ鹽ハ日本第一ナリ。

備前ノ海上ニハ備前ノ兒嶋アリ、兒嶋ハ昔ハ全ク嶋ナリシヲ、今ハ内地ト一筋ノ道ヲ通ジテ其ノ形袋ノ如シ。斯クノ如ク嶋ニ似テ僅ニ内地ニ續ケル者ヲ半嶋ト云ヒ、其ノ内地ニ通ズル所ヲ地峽ト云フ。岩屋ノ瀨戸ヨリ兒嶋ニ至ルマデノ海ヲ播磨灘ト云フ。灘トハ海ノ別名ナリ。兒嶋ヲ過ギテヨリ右ハ備中備後ノ諸國ニシテ左ハ四國ナリ。此ノ間ノ海ヲ水嶋灘ト云フ。

余ガ船ハ備後ノ鞆津ニ寄港シ備後蘭席ヲ買ヒ求メ、其レヨリ安藝ノ嚴嶋ニ至レリ。嚴嶋ニハ有名ナル嚴嶋神社アリテ宮殿ハ海中ニ架シタルガ如ク、山ニハ鹿遊

金港堂書籍株式會社

ビ海ニハ魚躍ル、其ノ風景言語ニ盡クシ難シ、謂ハユル日本三景ノ一ナル宮嶋是レナリ。宮嶋ノ對岸ナル廣嶋ハ中國第一ノ都會ナリ。是レヨリ西ハ周防灘ニシテ、尚進メバ兩岸再迫リ、左ハ九州ノ北端ニシテ例ノ踊レル人ノ頭ニ當タリ、右ハ中國ノ西端ナル長門ノ國ニシテ蜥蜴ノ尾ニ當タレリ。此ノ瀨戸ニ赤間ガ關ノ港アリ、馬關トモ云ヒ、下ノ關トモ云フ、九州及ビ北海ヨリ大坂ニ通フ船ハ皆ココニ寄ル。岩屋ノ瀨戸ヨリココニ至ルマデヲ瀨戸内海ト云フ。

余ガ大坂ヲ出デシヨリ海路百二十里ヲ航シテ已ニ十餘日ヲ費ヤシ、赤間ガ關ニ着キシハ五月ノ半ナリキ。余ハ是レヨリ北ニ廻リテ北海道ニ行クベキ筈ナリシガ、碇泊中大坂ヨリ電報ニテ「大坂米拂底北海道行キ見合ハセ、九州米ヲ買ヒ入レテ上レ、委細ハ郵便」ト申シ來リタレバ、詮方ナクテ獨國見丸ヲ出帆サセ、余ハ其ノ儘馬關ニ滯在シテ郵便ノ來ルヲ待チ居タリ。

爲替

爲替。

國見良助ハ父ノ命ニヨリ多クノ米ヲ買ヒ入レサルベカラズ。多クノ米ヲ買ヒ入ルルニハ多クノ金ヲ要スベシ。國見氏ノ父ハ如何ニシテ此ノ金ヲ送リシカ。今良助ハ大坂ヨリ百里ノ外ニ在リ。飛脚ヲ差シ立テテ送ランカ、多クノ日數ヲ要シ、此ノ一刻片時ヲモ爭フ商用ヲ辨ズルニ足ラザルベシ。況大金ノコトナレバ途中盜難ノ恐レアルヲヤ。然ラバ如何ナル方法ニテ之ヲ送リシカ。

大坂ニハ有名ナル浪華銀行アリテ諸國ノ都會ニ在ル銀行、會社等ト手廣ク取リ引キヲ爲セリ。赤間ヶ關アル馬關銀行ハ即浪華銀行ト取リ引キヲ爲ス者ノ一ナリ。永キ取リ引キノ間ニハ兩行互ニ貸シ込ミモアルベク、借リ込ミモアルベシ。

國見氏ノ父ハ良助ニ送ルベキ金子ヲ浪華銀行ニ持チ行キテ、同ジ金高ヲ馬關銀行ニテ受ケ取リタキコトヲ申シ込ミタレバ浪華銀行ハ其ノ金子ヲ受ケ取リテ直チニ左ノ如キ通知書ヲ

馬關銀行ニ發送セリ

通知書

第何號

一金參千圓也

右ハ大阪市淀屋辰五郎地國見義右衛門殿長男良助殿
貴行ヘ預ケ置ケル為替證書引換ニ前書ノ金額ヲ渡シ申候。
尤モ金額ハ來ル六月初旬ニ貴行ヨリ請拂ヒ可ル仕ル也

五月五日　浪華銀行

馬關銀行店中

浪華銀行ハ別ニ國見氏ニ為替證書ヲ渡シタ

レバ國見氏ハ此ノ證書ヲ手紙ノ中ニ封ジ込ミ
テ良助ニ送リタリ。其ノ手紙ハ左ノ如シ。

五月一日付ノ手紙拝見致シ其許御路柔惹
馬國ヘ出張ノ為ノ用ヲ費ヤシ遠ク當方ヲ
參事ニ相當ニ飛ブヘバ安心致成ニ成ル如當
地先月ニ南ノ米國ニ米ノ律ヲ在米拂底ニ
付相場高騰ヘバ勢ヒ所ノ通リ合ヲ成
肥後米五百石計ニ為ニ買入ル積ニ成
成ニ付テ金參千圓浪華銀行ヨリ馬
關ニ向ケ為替振出ヒ別紙證書ヲ

[illegible]

五月五日　國見良助殿

國見善七郎門

別紙ノ爲替證書ハ

爲替證書

一金壱千圓也

右ハ第何銀行歸通知ヲ以テ即直ニ知事ニ渡ス人ヲ[illegible]

[illegible]

五月五日

馬関銀行[illegible]

良助ハ直チニ此ノ證書ヲ携ヘ馬關銀行ヘ行キテ金子ヲ受ケ取リタリ。斯クノ如キ金子ノ送リ方ヲ爲替ト云フ。郵便局ニテモ同ジ方法ニテ爲替ヲ取リ扱フベシ。爲替ヲ郵便局ニ託スルヲ郵便爲替ト云ヒ、銀行ニ託スルヲ銀行爲替ト云フ。爲替差出人ハ此ノ便利ヲ受クルガ爲ニ相當ノ報酬ヲ爲ス、之ヲ爲替手數料ト云フ。

斯クテ良助ハ金子ヲ受ケ取リタル日直チニ豐前ノ小倉ニ渡リタリ。

源義經

源義經。

源義經ハ今ヨリ凡七百年前ノ名高キ軍人ナリ。義經ノマダ幼クテ牛若丸ト云ヒシ時父義朝ハ平清盛ト戰ヒテ殺サレ、兄頼朝ハ捕レテ伊豆ノ蛭ガ小嶋ニ流サレ、己レハ京ノ鞍馬ノ山寺ノ弟子トセラレヌ。

清盛ハ時ノ大臣ニシテ奢リヲ極メ、天子ヲ蔑ニシ、人民ヲ苦シムルコト甚シカリキ。其ノ子宗盛父ノ後ヲ嗣ギシガ性質愚ニシテ天下ヲ治ムルニ堪ヘザリキ。頼朝、義經等年漸ク長ジ、此ノ時ニ乘ジテ平家ヲ亡ボシ、父ノ怨ミヲ報イ、天下ヲ平カニセント思ヒ立チテ、軍ヲ起コシタリ。

源義經像

頼朝ハ相摸ノ鎌倉ニ役所ヲ開キテ之ニ居リ義經ハ軍ノ大將トシテ常ニ戰場ニ臨メリ。

平家ハ遂ニ源氏ノ爲ニ京都ヲ追ヒ出サレ、攝津ノ一ノ谷ニ城ヲ構ヘタリ。此ノ城前ハ須磨ノ浦ニ向カヒ、後ハ鵯越ヲ負ヘリ。鵯越ハ絶壁

刀ヲ以テ削リタル如ク、鳥ナラデハ通ハズト云フ険阻ナレバ、平家ノ人人安心シテ、山手ノ守リ疎ナルヲ計リ知リ、大膽深智ナル義經ハ精兵ヲ從ヘテ山ヲ廻リ、彼ノ鵯越ヨリ逆落トシニ攻メ下リケレバ、平家ハ一戰ニ打チ負ケテ、四國ニ渡リ讃岐ノ屋嶋ニ留マリヌ。

義經ハ平家ノ跡ヲ追ヒ大物ノ浦ニ至リシガ、折節風ハ地ヲ卷キ、浪ハ天ヲ蹴ルホドノ大アレナルニ、義經ハ一刻モ猶豫セズ、風波ヲ推シ切リテ船ヲ出ダシ、平家ノ不意ヲ討チテ屋嶋ヲモ追

偏、

ヒ落トシ、遂ニ長門ノ壇ノ浦ニテ平家ノ一族ヲ亡ボシヌ。

斯クテ頼朝ハ將軍ニ任ゼラレ相模ノ鎌倉ニ府ヲ開キ、天下太平ニ治マリキ。是レ偏ニ義經ノ武功ナレバトテ朝廷ノ御用ヒモ重ク世ノ尊敬モ大方ナラザリシガ、不幸ニシテ頼朝ニ惡マレテ勘氣ヲ蒙リヌ。憐ムベシ、智勇並ビナキ義經ハ日本國中ニ身ヲ寄スベキ處ナク、涙ヲ呑ミテ京都ヲ立チ退キケリ。義經ノ成リ行キニ付キテハ余又話シヲ繼グ時アルベシ。

良助九州四國廻

良助ノ九州四國廻リ。

小倉ヨリハ街道二ツニ分カレ、一ハ西ノ海岸、一ハ東ノ海岸ニ沿ヒテ九州ヲ一周セリ。余ハ西ニ進ミ筑前ノ博多ニ至リヌ。小倉ハ小倉袴、博多ハ博多帶ノ名ヲ以テ知ラル。

筑前ノ太宰府ニハ天神樣ノ古蹟アリ、肥前ニハ長崎ノ港アリテ五嶋ノ鯨、高嶋、唐津ノ石炭ナド重要ノ産物ヲ出ダセリ。石炭ハ製造場汽船、汽車等ニ必要ナル薪ナリ。余ハ急ギ肥後ニ至リテ肥後米ヲ買ヒ入レテ大坂ニ送リ、今ハ余カ職分濟ミタレバ、是レヨリ九州、四國見物ヲ兼ネテ當國三角ノ港ヨリ薩摩ノ國ニ渡リヌ。余ハ此ノ地ニ於テ煙草、鰹節ヲ買ヒ入レシガ、折リヨク琉球ヨリ砂糖、泡盛、上布等ノ産物ヲ積ミテ大坂ヘ歸ルベキ汽船ノ着シタレバ、荷物ハ之ニ積ミ入レタリ。

薩摩、大隅ハ例ノ踊レル人ノ兩足ニ當タリテ其ノ間ニ櫻嶋アリ。此ノ嶋ニ富士ノ形シタル山アリテ其ノ頂キリ絶エズ烟ヲ吹キ出ダセリ。余ハ小學校ニテ此ノ如キ火山ノ話シヲ聞キシ

コトアリキ。

余ガ九州ニ入リシヨリ暑サ漸ク甚シク京都ニテハ嵐山ノ櫻ノ若葉漸ク影ヲ成ス頃ナルニ、薩摩ノ暑サハ四條河原ノタ涼ミ癒(コヒ)シキ程ナリキ。琉球ヨリ歸リシ人ノ話シヲ聞クニ琉球ノ暑サハ薩摩ノ比ニアラズト。サレバ南ニ進ム程氣候ノ暑キコトヲ知ルベシ。余ハ大隅、日向、豐後ヲ經テ四國ニ渡リ阿波ノ藍、土佐ノ鰹節ヲ買ヒ讃岐ノ象頭山ノ琴比羅社ニ參詣シ、又船ニ乘リテ大坂ニ歸リヌ。

四年ノ備へ

四年ノ備へ。

汝等ハ天明ノ饑饉又ハ天保ノ饑饉ノ話シヲ聞ケリヤ。汝等ガ祖父母ノ中ニハ天保ノ饑饉ニ逢ヘル者アルベシ。

饑饉トハ諸國一般作物ノ出來ザルヲ云フ。

饑饉ノ年ニ方リテハ、タトヒ百万ノ金ヲ積ムトモ一升ノ米ヲ買ヒ難キコトアリ。青葉、青草ハ皆食ヒ盡クシ、遂ニハ疊ミ筵ヲ嚙ミ、食慾ノ最止メ難キ時ハ、己レガ子ヲサヘ食フ者アリ。餓死人ノ死骸ハ道路ニ充チテ誰レ取リ收ムル者モナシ。實ニ目モ當テラレヌ有リ様ナリ。

今日ハ交易繁昌ノ世ナレバ、タトヒ日本一般ノ不作ナリトモ、外國ヨリ穀物ヲ輸入スベシト思フ者アリ、是レ大ナル誤リナリ。斯カル時ニハ穀物ノ價甚騰貴スルコトハ言フ迄モ無シ。サレバ昔ノ人ハ金錢アリテ米穀ナキニ餓死シ、今ノ人ハ米穀アリテ金錢ナキニ餓死セン。

饑饉ハ突然トシテ來ル者ニアラズ、必ズ二、三年乃至四、五年前ヨリ連年氣候不順ニシテ作物十分ニ出來ザル者ナリ。若シ豫メ用意シテ粉、甘薯、雜穀等ヲ貯フル時ハ己レモ餓死ヲ免カレ、餘リアレバ人ヲモ救フコトヲ得ベシ。天明ノ饑饉ニ奥羽最甚シカリシ中ニ米澤ノ領主上杉治憲ハ豫メ人民ニ勸メテ凶年ノ備ヘヲナサシメタリケレバ、獨米澤領ノ人餓死ヲ免レタルノミ

大水話

ナラズ、他領ノ人ヲ救ヒシコト亦甚多ク、天下相傳ヘテ美談トセリ。

大水。

一年氣候不順ニシテ雨風時ナク起コリ、寒暖常ナラザリキ。天明ヨリ天保マデ五十年、今又天保ヨリ五十年ニ當タレバ、老人等皆云フ「饑饉ノ將ニ至ラントスルナリ」。幸ニシテ作物ノ實入リハサノミ惡シカラザリシニ、七、八月ノ大水及ビ大風ニテ收納皆無トナリシ國國多シ。

殊ニ福岡縣、奈良、和歌山三縣ハ水害最甚シカリキ。

福岡縣ニテハ筑後川及ビ其ノ枝川等、奈良縣ニテハ吉野川其ノ他ノ諸川、和歌山縣ニテハ吉野川ノ下流ナル紀ノ川ヲ始メ、紀伊全國ノ諸川何レモ水嵩俄ニ增シテ最甚シキハ高サ二丈八尺ヲ增セリ。サレバ音無川モ名ノミニテ漲ル音ハ百千ノ雷ノ如ク、ココニ當タリ、カシコヲ突キテ、忽數町ノ堤防ヲ破リ、其ノ田畝ニ汎濫スル勢矢ノ如ク、木ヲ倒シ、家ヲ流シ、見ル間ニ一面ノ海トナリヌ。

人ハ「寢耳ニ水」ト驚ク間モナク、水ハ已ニ腰ヲ浸サントス。老人ト小兒ヲ助ケテ二階ニ上レバ水モ追ヒテ二階ニ上ル。今ハ老人モ小兒モ危キヲ忘レテ自屋根ニ上レバ寄セ來ル大浪ノ爲ニ屋根モ柱モ遂ニ突キ流サレヌ。水練ニ達レタル人モイツマデカ泳ギ通スベキ、ヤガテ身體疲レテ逆巻ク水ニ呑マレヌベシ。イツシカ泣キ叫ブ聲ハ絶エテ、唯怒レル水ノ音ノミスサマジ。

數日ヲ經テ海ニ沿ヒタル國國ニ死人材木家具ノコハレ等海岸一面ニ流レ寄レリ。親子兄弟帶ニテ珠數繋ギトナレルハ「死ナバ一所ニ」ト約セシナラン。板又ハ盥ニ幼キ兒ヲ結ビ付ケタルハ、セメテ子供ヲ助ケントテノワザニテ親ハ泥ノ海ノ底ニ沈ミシナラン。其ノ情愛ヲ思ヒヤレバ、何レヲ何レトモ云ヒ難ク、皆トリドリニ哀レナリ。

相場

筑後川ノ川邊ニ多年住メル農夫アリケリ。

連日小ヤミナク降リシキレル大雨ニ必洪水ノアランコトヲ覺悟シ家財道具ヲ取リ片付ケテ其ノ身モ身輕ニ裝ヒ、腰ニハ握リ飯ヲ包メル風呂敷ヲ纏ヒテ待チ居タリ。果クセルカナ、漲ル水ノ響キ、堤ヲ噛ム波ノ音、次第次第ニ高クナリテ急ヲ告グル太鼓ノ音モ右往左往ニ走ル人ノ足音モ皆打チ消サレヌ。

農夫ハ是レ迄ナリトテ家ヲ出デ鎮守ノ森ナル大木ノ上ニ攀ヂ上レリ。上ルヤ否ヤ堤ハ切レテ押シ出ヅル水ノ勢ハスサマジキコト言ハン方ナシ。忽ニシテ見渡ス限リ一面ノ海トナリテ寺ノ屋根ノミ僅ニ水ノ上ニ顯ハレタリ。

斯カル處ニ逃ゲ後レシモノニヤアラン、一人ノ男此ノ大木ヲ目當テニ手モタユゲニ泳ギ來レリ。漸クニシテ手ノ屆クマデニ泳ギ來リケレバ、農夫ハ手ヲ取リテ引キ揚ゲクルニ、同村ノ富豪ト聞コエシ果ナリケレバ、互ニ無事ヲ祝シテ水ノ早ク退カンコトヲ願ヘリ。

其ノ日ハ終日減水スベキ撲樣モナク、夜ニ入リテハ次第ニ飢エヲ覺エケレバ、農夫ハ腰ナル

握リ飯ヲ取リ出ダシテ食ハントセリ。其ノ時某ハ數多ノ金ヲ財布ニ入レテ首ニ掛ケタレドモ飢エヲ凌グベキ用意少シモナカリケレバ、農夫ニ向カヒテ、金壹圓ヲ與フベケレバ握リ飯一ツヲ與ヘヨト乞ヒタリ。農夫ハ首ヲ掉リテ「此ノ水何時退クトモ知レ難シ、然ルヲ此ノ握リ飯ヲ御身ニ與ヘナバ我レモ亦餓死セザルヲ得ズ。千萬ノ金モ命ニハ替ヘ難シ」トテ肯ゼズ。

其ノ翌日ニ至リテモ水退カズ、救助ノ船モ來ラザリケレバ、某ハ金十圓ヲ以テ握リ飯一ツニ替ヘンコトヲ乞ヒケレドモ、握リ飯モ今ヤ唯三ツヲ餘スノミナリケレバ農夫ハ尚肯ゼズ。遂ニ其ノ日ノ夕暮レニ至リテ某ハモハヤ餓エ死ヌバカリニナリケレバ、財布ヲ首ヨリハヅシテ農夫ニ與ヘ、手ヲ合ハセテ握リ飯一ツト替ヘンコトヲ切ニ乞ヒタリ。農夫モ今ハ氣ノ毒ト思ヒテ遂ニ握リ飯一ツヲ與ヘタリト云フ。

何物ニ限ラズ品少クシテ之ヲ得ント欲スル人多ケレバ其ノ價貴ク、品多クシテ之ヲ得ント欲スル人少ケレバ其ノ價賤シ。之ヲ物ノ相場

金港堂書籍株式會社

ト云フ。故ニ物ニハ定マリタル價ナシ。

大水ノ年諸國ノ田畑多ク損害セラレシカバ、米穀ノ相場日日ニ昇リ、加フルニ暴風アリテ一時白米ノ價大凡平生ノ二倍マデ昇リシコトアリキ。又東京ノ材木ハ紀州ヨリ來ルモノ多キニ、此ノ年ノ大水ニテ紀州ノ材木多ク流失セシカバ、東京ノ材木忽三割乃至五割ノ高直トナレリ。

品物ノ多ク用ヒラルル時ハ其ノ物引キ足ラヌコトアリ。故ニ用ヒノ多キ時ハ相場ノ上ルコト亦拂底ニ同シ。タトヘバ夏作ノ宜クシテ麥ノ收納滿足ナリトモ、米價ノ高直ニヨリテ貧民皆麥ヲ食フニ至ラバ麥ノ價モ亦上ルベシ。

良助北海廻り

良助ノ北海廻り。

余ノ大坂ニ著スルヤ國見丸ハ赤間ガ關出帆後難風ニ遭ヒ、處處漂流ノ後漸ク越前ノ敦賀港ニ著シタリトノ電報屆キシカバ、余ハ又父ノ命ニヨリテ直チニ汽車ニテ近江ノ大津長濱ヲ經テ敦賀ニ至リキ。長濱ハ有名ナル濱縮緬ノ出

良助北海廻り

ヅル所ナリ。

サテ國見丸ニ就キテ其ノ難風ニ逢ヒシ次第ヲ尋子シニ、此ノ船馬關出帆後出雲ノ大社ノ沖ニテ暴風ニ逢ヒ遂ニ隱岐ノ嶋ニ漂着シ風ノ靜マルヲ俟ツコト數日、損所ヲ繕ヒテ直チニ當港ニ向カヒシナリト云ヘリ。山陰道ニハ丹後ノ天橋立トテ日本三景ノ一ナル名所アリ、又牧牛、銅鐵ヲ始メ山野ノ産物ニ有名ナル者アレド皆北海道向キニ非ルヲ以テ、山陰道諸港ニハ寄セザリシナリ。

余ハ乘リ組ミ積ミ荷ノ安全ナリシヲ祝シ、余モ同船シテ出帆セリ。是レヨリ北海道諸國ノ海岸ヲ廻航シテ越後ノ直江津ニ著キヌ。直江津ヨリ信濃ヲ經テ東京ニ達スル鐵道アレバ越後ヨリ一日ニシテ東京ニ達スルコトヲ得ルナリ。

直江津ヲ發シテ北ニ進ムコト三十里ニシテ金山ヲ以テ名高キ佐渡ノ嶋ヲ左ニ見テ越後新潟ノ港ニ著キヌ。新潟ハ信濃川ノ口ニ在リ、信濃川ハ遠ク源ヲ信濃ニ發シ、我ガ國三大河ノ一ニシテ、水深ク舟ヲ通ズベシ。總ベテ商賣ノ盛ナル都會ハ大抵海岸又ハ舟ノ通ズル川ノ岸ニアリ。

新潟出帆ノ後ハ右ニハ越後、羽前、羽後、陸奥ノ海岸、左ニハ雲ト水トノミヲ見テ程モナク赤鰐ノ尾ニ當レル北海道函館ノ港ニ著キヌ。函館ニハ余ガ家ノ支店アレハ積ミ荷ハ悉ク水揚ゲシテ直チニ藏入レヲナセリ。

函館ハ日本第一ノ良港ニシテ鯡、鮭、昆布等北海道ノ産物ハ皆此ノ港ニ集マリ、然ル後或ハ大

坂ニ或ハ新潟ニ或ハ外國ニ出ダサルルナリ。

余ハ支店ノ支配人ニ命ジテ鯡昆布等ヲ國見丸ニ積ミコマシメ船ノミヲ歸シテ余ハ猶函館ニ留マリタリ。

函館ヨリ大坂ヘノ海路ニ二道アリ、本嶋ノ左ヲ廻ルヲ東廻リト云ヒ、右ヲ廻ルヲ北廻リト云フ。國見丸ハ即北廻リヲナセシナリ。

總ベテ北廻リノ海岸ニハ好キ港少シ。

余若シ三、四月ノ頃ニ往キシナラハ鯡獵ノ盛ナルヲ見シナラン。然レドモ余ガ往キシ時ハ正ニ鮭獵ノ時節ナリケレバ其ノ漁場ノ樣子ヲ

一見セント思ヒキ。乃汽船ニ乘リテ西岸ヲ廻リ一晝夜ニシテ小樽ノ港ニ上陸シ、札幌ト云フ都會及ビ幌内ノ石炭山等ヲ見シガ、石狩川ノ鮭獵コソ實ニ奇ラシキ觀モノナリケレ。

コレヨリ尚西岸ニ沿ヒテ北ニ進マバ遂ニ赤鱈ノ左端ナル一ノ岬ニ至ルベシ。總ベテ海中ニ突出シタル地ノ鼻ヲ崎又ハ岬ト云フ。此ノ岬ト海峽ヲ隔テテ相對シタル細長キ嶋ハ即カラフトナリ。又函館ヨリ東岸ニ沿ヒテ進マバ赤鱈ノ右端ヲ越エテ遂ニ其ノ頭ナル根室ノ港

ニ至ルベシ。根室ノ東北ニ千嶋列ヲ成シテ北ノ方大陸ニ接ス。からふとノ北モ亦同ジ大陸ニ接セリ。此ノ大陸ハ〳〵ベりやト云フ國ニテ我ガ日本ノ内ニアラズ。

根室ニテハ寒氣殊ニ烈シクシテ、毎年冬ニ至レバ海水ノ氷ルコト一里ニ至ルト云フ。抑鹽水ハ實ニ氷リ難シ、動ケル水モ亦氷リ難シ、然ルニ浪風際ナキ荒海ノ氷ルハ驚クベキコトナラズヤ。斯クノ如ク愈北ナレバ愈寒キ者ナレバ〳〵ベりや、からふとノ寒サ思ヒヤルベシ。

余ハ札幌ヨリ陸路ヲ南ニ取リ、入リ海ヲ渡リテ函館ニ歸リヌ。北海道ハ物産ニ富ミタル國ナリト雖、移住スル人猶少キガ故ニ開ケタルハ唯海邊ノミニシテ、多クハ熊、鹿、狼ノ住居トナセルコソ惜シムベキ事ナレ。

北海道ハ昔蝦夷が嶋ト唱ヘシ地ニシテ、之ヲ占メタル土人ハ蝦夷人卽あいのナリキ。あいのハ今猶北海道ニ住ミテ日本人民タリ、大抵漁獵ヲ以テ生活ス。あいのハ甚義經ヲ尊敬セリ。傳ヘ云フ、義經京都ヲ出デテ後遂ニ蝦夷地ニ渡リあいのヲ征服シテ其ノ王トナリシトゾ。

寒暖計。

何物ニテモ熱セラルレバ大抵嵩ヲ增ス、卽容積ヲ膨脹ス。鐵瓶ニ湯ヲ沸カス時其ノ水甚多ケレバ、未沸キ上ラザルニ、コボレ出ヅ、是レ水ガ溫マリテ膨脹シタルナリ。

寒暖計ノ中ニアル、光レル物ハみづかねナリ、みづかねハ銀ノ如ク光リ、水ノ如ク流レ動ク者ナレバ水銀トモ云フ。寒暖計ハ硝子ノ空球ニ細キ管ノ付キタル者ニシテ、譬ヘバ、小サキ德利ノ口甚細長キ者ナリ。此ノ中ニ水銀アリテ、周リ暖ナレバ膨脹シテ管ノ中ニ其ノ面ヲ上ゲ、冷ナレバ之ニ反ス。故ニ其ノ管ノ側ニ目ヲ刻ミ水銀ノ面ノ上下スル度ノ目印トス。多ク升ル

ハ多ク温ナルナリ、多ク降ルハ多ク冷ユルナリ。

度ヲ刻ムニハ種種ノ仕方アリ。其ノ一法ハ氷リノ中ニ入レテ水銀ノ降レル點ヲ零度トシ、沸湯ノ中ニ入レテ其ノ升レル點ヲ百度トシ、其ノ間ヲ百ニ等分スルナリ。是レ最便利ナル仕方ナレドモ、廣ク世ニ行ハルル者ハ之ニ異ナリ。通例ノ寒暖計ニハ氷點ヲ三十二度トシ、沸點ヲ

二百十二度トセリ。汝等ハ氷點、沸點ノ意味ヲ解スルナラン。此クノ如ク度ヲ刻ミタル者ヲ華氏ノ寒暖計ト云フ。寒暖計ハ蠶室ノ寒暖ヲ加減スルニ最便利ナル器械ナリ。

氷點ノ上ニ種種ノ文字ヲ記セリ。即春分、秋分、冬至、夏至等ニシテ各其ノ時節ノ温度ヲ示セリ。然レドモ國ニヨリテハ、時節同ジクシテ、寒暖異ナルコト多シ。譬ヘバ北海道ノ大寒ニハ水銀零度ニ降レドモ、九州ニテハ三十度以上ナルガ如シ。サレバ寒暖計ニハ唯其ノ中ヲ取リ

テ示セルノミ。汝等ハ亦血溫ト記シタルヲ見ルベシ。是レ正ニ九十八度ニアリ、卽人體ノ溫度ナリ。血溫ハ各地ノ人皆同シク、九州ノ人モ北海道ノ人モ變ハルコトナシ。血溫モシ百度ヲ越ユレバ之ヲ熱ト云フ、卽病アルノ驗ナリ。

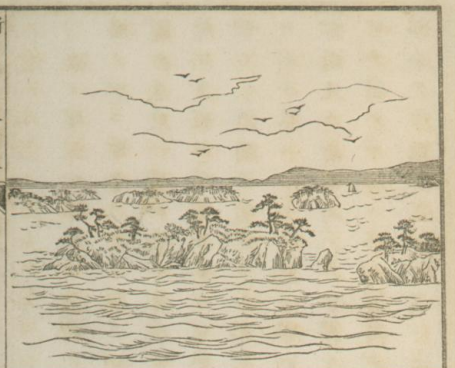
良助ガ東山道ノ旅。

北海道旅行ノ中已ニ十月トナリ、寒風凜冽トシテ面ヲ裂クニ至レリ。余ハ函館ヨリ日本郵船會社ノ汽船ニ乘リ込ミ、東京ニ向カヒテ出帆セリ。函館ヲ出帆セシ項コリ深キ霧ニ閉ヂ込メラレ山モ見エズ、陸モ見エズ、太陽モ見エザレバ、恰モ雲ノ中ヲ行ク如ク、心細キコト限リナカリキ。サレドモ汽船ハ磁石ヲ案内トシテ聊速カヲ弛メテ進行セリ。暫クアリテ何クトモナク鐘ノ音頻ニ聞コエケレバ、船中ノ人皆言ヒ合ヘリ、「船ハ尻矢崎ノ沖ニ在リ。」ト。既ニシテ霧漸ク晴レ、果シテ右ニ當タリテ尻矢崎ノ燈臺ヲ見留メタリ。北海ニハ霧常ニ深クシテ航海者屢目當テニ迷フガ故ニ燈明臺ニハ霧鐘ノ備ヘア

ルナリ。

船ハ尚南ニ向カヒ陸中ノ山山ヲ右ニ望ミテ進ミキ。蜥蜴ノ頭ニ耳ノ如キ出端アリ、ココニ金華山アリ、耳ト肩ノ間ハ灣ヲ成シ、ココニ松嶋アリ、船ハ遂ニ此ノ灣ニ入リ、萩ノ濱ニ着キケレバ余ハ上陸シテ此ノ地ヲ見キ。

松嶋ハ陸前ノ海上一群ノ小嶋ナリ、皆岩石ニシテ土ヲ被ラズ、老イ松、若松其ノ上ニ叢生シ、或ハ起キ、或ハ伏シ、其ノ景色實ニ日本三景ノ第一ニシテ人ヲシテ去ルニ忍ビザラシム。余ハ



「立チ返リ
又モ來テ見ン。
松嶋ヤ
小嶋ノ苫屋波ニ
荒ラスナ。」

ト古歌ヲ誦シテ纔ニ歩ヲ仙臺ニ移シタリ。余ハ仙臺ヨリ東北ニハ足ヲ入レザリシカドモ此

ノ邊ノ地形ノ話シヲスベシ。

彼ノ中央ノ山脈ハ陸前ノ西ノ境ヲ限リテ蜥蜴ノ口ニ達セリ。山脈ノ西一帶ハ昔ノ出羽ノ國ナリ、東一帶ハ昔ノ陸奥ノ國ナリ、故ニ東ハ肩骨ヨリ、西ハ喉首ヲ掛ケテ、總稱シテ奥羽地方ト云フ。頭腦ニ當タレル地方ハ四方山ニテ圍マレタル谷ニシテ是レ南部地方ナリ。諸子ハ南部絹又ハ南部馬ノ名ヲ聞キシナラン。蜥蜴ノ口ヲ圍メル地ハ今ノ陸奥ノ國ニシテ、其ノ西ノ部分ヲ津輕地方ト云フ。蜥蜴ノ口ニ青森ト云

フ港アリテ函館ト相對シ、汽船其ノ間ニ往來ス。又汽車ハ青森ヨリ仙臺ヲ經テ東京ニ通ズ。

余ハ仙臺ヨリ汽車ニ乘リテ東京ニ向カヒヌ。仙臺ヨリハ十二時間ニシテ東京ニ達スベシ。途中岩代ノ福嶋、下野ノ宇都宮等ニ停車セリ。岩代、下野ハ有名ナル養蠶國ニシテ奥羽地方ニハ亦南部、米澤等ノ養蠶地猶多シ。余ガ同車ノ人ハ頻ニ養蠶及ビ地理ノ話シヲナセリ。彼レ曰ハク、諸君ノ知リ給フ如ク、此ノ下野ヨリ京都ニ至ル一道ノ國國ヲ中山道ト呼ビ、下野ノ足利、

桑木

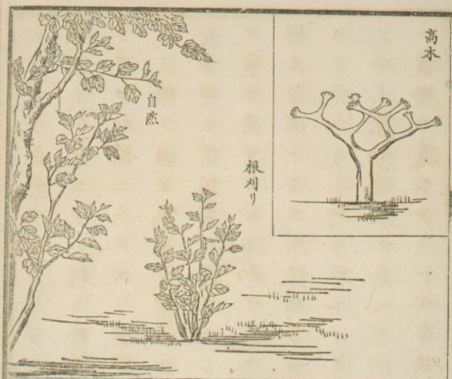
上野ノ桐生、信濃ノ上田、飛驒ノ高山、美濃ノ岐阜、近江ノ長濱等國トシテ生絲、織リ物ノ名産地アラザルハナシ。中山道ト奥羽ヲ合ハセテ東山道ト稱スレドモ、僕ハ養蠶道ト云ハン。ナド滑稽マジリニ喋喋ト話ス間ニ汽車ハ早クモ東京ノ上野停車場ニ着セリ。

桑。

養蠶ヲ盛ニセントナラバ先桑ノ培養ヲ盛ニセザルベカラズ。桑ニハ稻ト同ジクわせ、なか、

れくてノ三種アリテ早桑ハ收穫少ク、晩桑ハ收穫多シ。然レドモ雜キ蠶ヲ養フニハ早桑ニアラザレバ間ニ合ハズ。故ニ桑田ヲ開カバ必此ノ三種ヲ植エ置キテ蠶ノ初生ヨリ終ハリマデ夫レ夫レ區別シテ與フベシ。

桑ヲ植ウルニ三方アリ、根刈リト云ヒ、高木ト云ヒ、自然ト云フ。根刈リ桑ハ毎年生ズル芽生ヒヲ根本ヨリ刈リ取ルモノニテ、是レハ川淵ヒノ砂土、殊ニ洪水ノ患ヘアル所ニ適ス。高木桑ハ根際ヲ殘シテ株トナシ、四、五尺程上ヨリ刈ル



モノニテ、野原或ハ山ノ麓ナド、風雨ニ傷メラレ、霜雪ニ埋メラレ、又ハ泥土ニ葉ヲ汚サルル等ノ患ヘアル土地ニ適ス。自然桑ハ自然生ノ大木ニシテ高サ一丈ヨリ二丈ニ及ブ者アリ、是レハ

山中ノ風甚シク雪深クシテ根刈リ、高木トモ損傷スル處ニ宜シ。故ニ武藏ノ荒川、上野ノ利根川邊ニハ根刈リヲ用ヒ、同國ニテモ山邊ニハ高木ヲ用ヒ、山陰、北陸ノ諸國ニハ自然ヲ用フ。

桑畑ニハ地勢打チ開キテ空氣ノ流通宜シク、地質輕クシテ砂、小石ヲ交ヘ、且乾燥溫暖ニシテ地水ノ滯ラザル所ヲ最良シトス。

家畜。

農夫ノ農業ヲスルヤ、牛馬ノ力ニ賴ルコト實

ニ多シ。然ルニ農夫ニシテ牛馬ヲ無慈悲ニ扱ヒ、又之ヲ養フコト粗末ニシテ、之ヲ使フコト多カランコトヲ欲スルモノ多シ。余諸國ヲ巡グルニ嚴寒極暑ノ際馬ヲ虐使スルガ爲ニ盲目或ハ跛トナシクル者ヲ見ルコト屢ナリ。馬ノ不幸ハ言ラモ更ナリ、持主モ豈之ヲ以テ幸トナスベケンヤ。

良農ハ牛馬ノ樂シムヲ見テ已レノ樂シミトシ、馬小屋牛部屋ノ寒暖空氣ノ流通ニ心ヲ用ヒ、又食物ニハ家畜ノ好キ嫌ヒニ注意スルコトスベテ己レノ身ニ於ケルガ如シ。諸子ハ身體ノ不潔ニヨリテ病ヲ得ルコトヲ知ルナラン、牛馬ト雖亦之ニ同ジ。故ニ其ノ身體ノ汚レタル時之ヲ洗フハ勿論、毎日刷毛ヲ以テ擦リ、敷キ藁ハ新シクシテ乾ケルモノヲ用ヒ常ニ清潔ト健康トヲ保タシムベシ。

本邦産ノ牛ニシテ體ノ大ナルハ近江牛ナリ。性質順良ニシテ能ク勞役ニ耐ヘ、且老年ニ至ルマデ使用ニ適スルモノハ但馬牛ナリ。其人他尚中國、北國、九州等ノ諸處ニ産スル者アリ。

馬ハ牛ニ比スレバ力稍弱シト雖敏捷ナルコトハ遙カニ牛ニ過グ。本邦中馬ヲ以テ名高キ地ハ薩摩、土佐、磐城、羽後及ビ北海道諸國ナレドモ、是レ等ハ多ク軍馬ニ適ハ。農馬ニ適スルハ南部産ヲ第一トス其ノ身體大ニ性質順良ニシテ能ク勞役ニ耐フルガ故ナリ。

牛馬ハ唯勞役ヲ以テ農功ヲ助クルノミナラズ其ノ糞尿ハ亦最良ノ肥料トナル。牛馬ハ誠ニ農家ノ寶ト云フベシ。

東海道

東海道ノ旅。

余ハ東京ニ逗留スルコト半月許、商賈取リ引キノ摸樣ヲ見又諸處ヲ遊覽セシガ、已ニ年末ニ迫リタレバ一先歸國ノ途ニ上レリ。東京ヨリ西南海邊ノ國國ヲ經テ京都ニ至ル大道ハ卽東海道ナリ。余ハ東海道諸國ノ見物ヲ兼ネテ陸行セリ。

余ハ發足ノ日源氏ノ古蹟ヲ一見セントテ鎌倉ニ立チ寄レリ。鎌倉ハ三方山ニ包マレテ垣ノ如ク、一方ハ海ニシテ堀リヲ要セズ、天然ニ要

害ヨキ城地ナレバ、頼朝ノ此ノ地ニ幕府ヲ開キシモ誠ニ宜ナリ。其レヨリ百五十年ノ間、幕府ノ在リシ地ナレバ名所舊蹟甚多シ。鶴ガ岡ノ八幡宮ハ源氏ノ氏神ニシテ今モ廣大ナル宮殿アリ。鎌倉ノ宮ハ後醍醐天皇ノ皇子ニシテ忠孝義勇ノ譽マレ高キ大塔宮ガ逆臣足利直義ニ殺サレ給ヒシ跡ニシテ、此ノ皇子ヲ祭レル宮ナリ。其ノ外頼朝ノ墓、執權北條ノ屋敷キ跡ナドヲ見レバ、昔ノ事思ヒヤラレテ、面白クモ又哀レニモアルナリ。是レヨリ藤澤ニ出デテ馬術ニ

有名ナル小栗判官ノ古蹟ヲ尋子、名ニシオフ箱根ノ峠モ打チ越エテ駿河ノ國ニ入リヌレバ、時ハハヤ冬ノ初メニテサラヌダニ時知ラヌ富士ノ山ハ愈雪ニ研カレテ、昔山邊赤人ガ

「田子ノ浦ユ
打チ出デテ見レバ、眞白ニゾ
富士ノ高嶺ニ雪ハ降リケル。」

ト讀ミシヲ思ヒ出ヅルニ付ケテ又

「駿河ナル
田子ノ浦波立タヌ日ハ

有レドモ、君ヲ戀ヒヌ日ハ無シ。」

ト、フト兩親ヲ思ヒ出デ、ソゾロニ、道ノ急ガレケレバ、海道一ノ都會タル尾張ノ名古屋ニモ足ヲ止メズ、入リ海ヲ渡リテ伊勢ニ至リヌ。

既ニ故鄕モ近ヅキヌ、伊勢太神宮ハ天皇陛下ノ御先祖天照大御神ヲ祭リ奉レル所ナレバ、先何事ヨリモ太神宮ニ參拜シタリ。然シテ後京ニ入リ、大坂ニ歸リ、久々ニテ父母ニ見エ、互ニ健康ヲ祝シタル喜ビハ今猶目前ニ在ルガ如シ。

三大河

三大河。

日本中ノ國國ハ大抵山脈ヲ以テ界トシ、二方若シクハ三方ハ常ニ山ニ圍マレタリ。國ノ中央ニハ必多少ノ平地アリテ殆皿ノ底ノ如シ。諸方ノ山山ヨリ出ヅル小川ハ皆此ノ平地ニ集マリテ一ノ大ナル川トナリ、山脈ノ開キタル間ヨリ外ニ流レ出デテ、遂ニ海ニ入ル。凡川ノ出デ來ル次第皆此クノ如シ。

余ハ其ノ例トシテ日本三大河ノ出デ來ル有リ樣ヲ話サン。日本ノ三大河ハ北上川信濃川

及ビ利根川ナリ。

北上川ハ陸中ノ國ノ諸水ヲ集メテ川ヲ成シ、陸前ヲ通リテ同國石巻港ニテ海ニ入ル者ナリ。

陸中全國ハ山脈縱横ニ重疊セルガ其ノ中央ニ細長キ一帶ノ平地アリテ陸前ニ連ナレリ。故ニ諸山ノ水ハ此ノ平地ニ流レ集マリ、北ヨリ南ヘ行クニ隨ヒ漸ク大ナル川トナリテ陸前ニ入ル。此ノ川ニ沿ヒテ盛岡其ノ他南部地方ノ市町立チ並ベリ。此ノ間五十餘里、陸前ニ入リテヨリ十餘里、合ハヒテ七十餘里ノ長流ナリ。

信濃川ハ、其ノ名ノ如ク、信濃ヨリ出デ、越後ヲ通リテ同國新潟ニテ海ニ入ル。信濃ハ名高キ山國ニテ其ノ中央ニ月ノ名所ナル姥捨山等ノ

山脈アリテ馬ノ背ノ如ク全國ヲ二ツニ分カテリ。故ニ其ノ南ノ方ノ水ハ集マリテ南ニ流レ、尾張、三河、遠江等ニ入ル。北ノ方ノ水ハ犀川、筑摩川ノ二川トナリ、又集マリテ信濃川トナリ、遂ニ越後ヲ過ギテ海ニ入ル。犀川、筑摩川ハ共ニ五十里ニ近ク、兩水合シテ又五十里之ヲ日本第一ノ長流トス。

利根川ハ上野ノ水ヲ集メテ武藏、下總ヲ過ギ、又下野半國ノ水ヲ集メタル絹川ヲ合ハセテ下總ノ銚子港ニテ海ニ入ル。銚子ハ東海中ノ大港ニシテ醬油、縮魚類等ノ産物ニ有名ナリ。

此ノ三大河ハ何レモ舟楫ノ便アリ。我カ國ノ地勢ハ狹長ニシテ河水ハ中央山脈ヨリ兩側ニ流レ下ルノ勢ヲ成セリ。故ニ多クハ急流ニシテ短ク、舟楫ヲ通ズベキ川少シ。舟楫ヲ通ズベキ川ノ岸ニハ大抵商賣繁昌ナル都會アリ。

川中島ノ戰ヒ

今ヨリ三百年ノ昔足利將軍勢衰ヘテ國ヲ治ムルコト能ハザリシカバ、諸大名恣ニ相戰ヒテ

他ノ領地ヲ奪ヒ、戰爭止ム時無カリキ、後世之ヲ戰國ノ世ト云ヘリ。

此ノ時甲斐ノ領主ノ武田信玄トテ古今無雙ノ軍ノ上手ナリキ。甲斐ノ隣リハ信濃ニテ其ノ犀川、筑摩川、兩川ニ夾マレタル地ヲ川中嶋ト云フ。信玄信濃ニ攻メ入リテ是レ等ノ地ヲ奪ヒ取リケレバ、其ノ領主村上義清ハ逃ゲテ越後ニ走リキ。

當時越後ノ領主ハ義勇ノ譽マレ高キ上杉謙信ナリキ。謙信ハ義清ノ賴ミヲ受ケ、其ノ領地

ヲ取リ返シテ與ヘントテ軍ヲ川中嶋ニ出ダシテ信玄ト戰フコト前後五度ナリキ。

誠ニ是レハ日本一ノ智者ト日本一ノ勇者ノ戰ヒニテ何時終ハルベシトモ見エザリケレバ、一年川中嶋ノ戰ヒニ謙信ハ信玄ト自身勝負ヲ

決セント思ヒ、信玄ノ不意ヲ料リテ夜中ニ犀川ヲ渡リ、朝霧ノ中ヨリ烈風ノ如ク馳セ寄セ、其ノ身ハ白布ニ面ヲ包ミ駿馬ニ打チ跨リ太刀ヲ拔キ翳シ、「信玄ハイヅクニ在ル。」トゾ尋子廻リケル。信玄ハ此ノ時牀几ニ腰ヲ掛ケ敗ルル軍ヲ勵マシテ指揮シタルガ、謙信ヲ見テ「何物物シキ小悴メ。」トテ立チ上ラントスル所ヲ、謙信透キ間モナク馳セ寄セテ「坊主メ、坊主メ、坊主メ。」ト續ケ打チニ打チケレバ、信玄ハ受ケ留メタル軍配團扇ノ甲斐モナク肩先深ク切リ込マレタル處ニ甲斐ノ兵士等集マリ來リテ謙信ヲ懸ケ隔テケレバ、信玄ハ危キ命ヲ助カリ、謙信ハ無念ノ齒噛ミヲナシテ引キ揚ゲヌ。斯クテ勝負分カレザルニ信玄ハ病死シ、幾バクモナク謙信モ亦世ヲ去リヌ。

信玄戰ヒヲ好ミシト雖、民ヲ愛スルコト亦厚カリケレバ、甲斐ノ人今ニ至ルマデ其ノ恩ヲ記憶シ「信玄公樣」ト稱シテ之ヲ尊敬スト云フ。

明治廿五年四月十日印刷
同廿五年四月十二日出版
同廿六年九月三日印刷
同廿六年九月七日改正再版發行

實價金拾錢

發行者　金港堂書籍株式會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者　原亮三郎
東京市下谷區龍泉寺町四百十番地

印刷者　日置九郎
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

印刷所　金港堂書籍株式會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

大賣捌　金港堂
大阪市東區南本町四丁目

金港堂
仙臺市國分町五丁目

版權所有
版權所有